

令和5年度（2023年度）自治体職員協力交流事業  
協力交流研修員 研修報告書

2023 Local Government Officials Training Program in Japan  
Trainee Reports



一般財団法人 自治体国際化協会  
Council of Local Authorities for International Relations

## はじめに

一般財団法人自治体国際化協会では総務省と連携し、海外の地方自治体の職員を日本の地方自治体で受け入れ、受入自治体を持つ様々なノウハウや技術等を習得させる「自治体職員協力交流事業」を実施しています。

平成8年度（1996年度）に創設され、これまでに38の国・地域から1,202名の研修員が本事業に参加されています。令和2～3年度（2020～2021年度）においては新型コロナウイルスによる渡航制約等を理由として開催を断念せざるを得ない状況でしたが、令和4年度（2022年度）は来日後の日本語研修を集合研修ではなくオンライン化するなど、調整・工夫を経た上で事業を再開しました。令和5年度（2023年度）は、コロナ禍以前と同様の形態で事業を実施し、3か国から6名の研修生が様々な分野で実り多い研修を行いました。

本事業に参加された研修生の皆様は、現在では派遣元の海外自治体に復職し、日本における研修の成果や経験をそれぞれの職場において大いに活かされ、また、自治体間の国際協力・交流の貴重な架け橋として活躍されています。

本報告書では、研修員の日本での本研修における奮闘ぶりや研修の成果を各方面の方々のご協力のもと、全6事例を掲載する形で編集いたしました。

研修員派遣を検討される海外自治体や今後研修員の受け入れを検討されている日本の地方自治体において先行事例としてご参照いただけましたら大変幸甚でございます。

最後に、研修員の受け入れにご尽力されました各受入自治体及び関係機関の皆様方に、心よりお礼を申し上げます。

一般財団法人自治体国際化協会  
交流支援部 経済交流課

## 令和5年度（2023年度）年度自治体職員協力交流事業スケジュール

### 令和5年度（2023）

#### 【5月派遣】6名

岩手県（中国）・岐阜県（中国）・鳥取県（中国）

山口県（ベトナム）・大分県（中国）・高知市（インドネシア）

5月21日（日） 協力交流研修員の来日

#### 東京研修

5月22日（月） 開会式[場所：自治体国際化協会・東京本部]  
オリエンテーション（自己紹介・アイスブレイク等）  
事例発表（鳥取県）  
受入自治体担当者との面談

日本事情説明

5月23日（火） 日本語レベルチェック（筆記・面接）  
各種事務手続き、質疑応答  
都内視察

5月24日（水） JIAMへ移動  
JIAMオリエンテーション

#### 日本語研修

5月25日（木） 日本語研修オリエンテーション  
日本文化等講義

5月26日（金） 日本語研修 授業開始（9:25～17:00）（土・日曜日は除く）

5月31日（水） 日本伝統文化講義（茶道）

6月7日（金） 所外活動（京都防災センター）

6月10日（土）～

6月11日（日） 日野町スタディツアー

6月19日（月） 所外学習（唐崎中学校訪問）

6月21日（水） 日本語研修終了、成果発表会

#### 専門研修

6月22日（木） 閉講式  
各受入自治体へ出発  
受入自治体における専門研修開始

#### 研修員の帰国

11月以降 研修期間に応じて順次帰国  
（山口県、大分県、高知市の研修生は11月、岐阜県の研修生は2月、  
鳥取県の研修生は3月、岩手県の研修生は4月に帰国）

## 令和5年度（2023年度）取組一覧（6人/6団体）

### 5月渡航

No.	受入自治体		派遣元の海外自治体	友好・姉妹協定	選考方法
1	岩手県		中国・大連市	地域間連携協定	独自
2	岐阜県		中国・江西省	友好県省協定	独自
3	鳥取県		中国・吉林省	友好県省協定	独自
4	山口県		ベトナム・ビンズン省	友好・協力に関する覚書	独自
5	大分県		中国・湖北省	なし (トップ交流実績あり)	独自
6	高知県	高知市	インドネシア・スラバヤ市	姉妹都市提携	独自

※ 選考方法「独自」は受入自治体・派遣元の海外自治体間の合意に基づく申請を指す。自治体国際化協会による「斡旋」は該当なし。

# 令和5年度(2023)自治体職員協力交流事業(LGOTP)

## 報告書

---

### 目次

---

#### (岩手県 ー 中華人民共和国大連市)

- ① 自治体報告書 「岩手県と大連市の架け橋として」
- ② 研修員報告書 「岩手県での忘れられない思い出」

#### (岐阜県 ー 中華人民共和国江西省)

- ③ 自治体報告書 「自治体職員協力交流研修員の受入れについて」
- ④ 研修員報告書 「日本の林業知識を研究学習する旅」

#### (鳥取県 ー 中華人民共和国吉林省)

- ⑤ 自治体報告書 「令和5年度自治体職員協力交流研修員の鳥取県研修」
- ⑥ 研修員報告書 「令和5年度鳥取県での研修について」

#### (山口県 ー ベトナム ビンズン省)

- ⑦ 自治体報告書 「ビンズン省と山口県の交流の架け橋として」
- ⑧ 研修員報告書 「山口県とビンズン省との自治体職員協力交流事業」

#### (大分県 ー 中華人民共和国湖北省)

- ⑨ 自治体報告書 「湖北省研修員の受入について」
- ⑩ 研修員報告書 「さらなる友好関係につながる人的交流」

#### (高知県高知市 ー インドネシア共和国 スラバヤ市)

- ⑪ 自治体報告書 「自治体職員協力交流研修員の受入れについて」
- ⑫ 研修員報告書 「LGOTP 2023 FINAL REPORT」

## 「岩手県と大連市の架け橋として」

自治体名	岩手県
研修員名	王曉晗（おう ぎょうかん）
出身国	中華人民共和国
研修分野	経済交流
研修期間	11 か月（来日時点からの月数）
主な研修先	商工労働観光部 産業経済交流課

### 1 背景・目的

岩手県と中華人民共和国大連市とは、地域間連携の強化を目的として、平成 19（2007）年 5 月に「地域間連携の推進に関する協定」を締結し、また、翌年 1 月には同協定に基づき、職員の相互派遣交流を行うことを定めた「公務員交流研修覚書」を締結。平成 24（2012）年 12 月には「岩手県による大連市職員の派遣研修の受入れに係る覚書」を締結し、産業・文化・学術分野等多方面における交流や、職員の相互派遣交流により、極めて良好な関係を構築しているところ。

※ 新型コロナウイルス感染症の影響により、職員の相互派遣交流は一時中断。受入は令和 5 年度から、派遣は令和 6 年度から再開。

### 2 研修の概要

王研修員の受入れに当たっては、本県が重点的に取り組んでいる対中国経済交流事業を中心に経済交流分野について研修することを基本とした。

《主な対応実績》

- (1) 岩手県の対中経済交流事業等に係る中国語翻訳通訳業務全般
  - ア 岩手県副知事の中国出張への同行対応（大連市、瀋陽市等）
  - イ 岩手県林業技術センター職員との中国出張対応（雲南省） 等
- (2) 中国からの訪問団等の受入に係る通訳・アテンド
  - ア 中国バイヤー等来県対応（星遠（大連）商貿有限公司等）
  - イ 雲南省青少年岩手県訪問団来県対応
  - ウ 雲南省民生庁訪問団来県対応
  - エ 雲南省のキノコ類研究者来県対応 等
- (3) 会議等出席
  - ア 岩手県大連・雲南友好議員連盟総会・調査研究会
  - イ 大連ウイークイベント（大連市主催、東京都） 等
- (4) その他
  - ア 岩手県行政関係講義（地方自治制度、岩手県の農林水産物の海外輸出施策、航空施策、観光施策、出納制度、サービス及びコンプライアンス、国際戦略ビジョン及び国際交流業務、東日本大震災津波復興関係 等）
  - イ 県内外企業等視察

- (ア) 岩手県産品パッケージデザイン個別相談会（宮古市）
  - (イ) 秋田県庁及び秋田県内企業視察（秋田県の輸出戦略等調査）
- ウ 文化紹介等
- (ア) 海外向け SNS の記事作成、県内取材
  - (イ) 盛岡さんさ踊り参加（県庁チーム）
  - (ウ) 「2023 ワン・ワールド・フェスタ in いわて」（主催：（公財）岩手県国際交流協会）参加

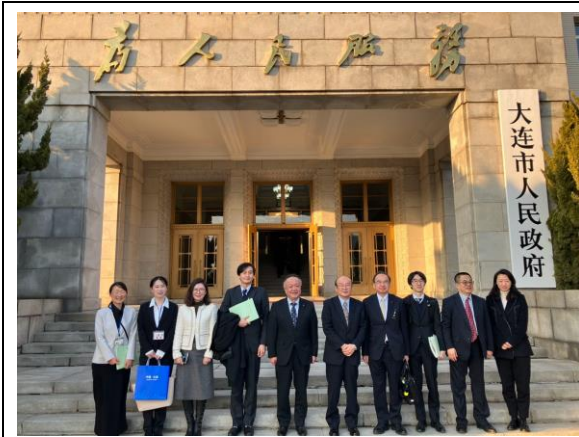
### 3 成果・課題

王研修員については、中国からの来県時には、通訳対応や本県の経済ミッションにおける資料翻訳等、対中事業のサポート役として尽力し、大連市との交流促進はもとより、雲南省政府や中国企業など多方面の対中人脈の強化に貢献した。

日々日本語能力の向上と円滑なコミュニケーションに努め、研修や休日の活動、職員をはじめ県民との交流を積極的に行っていた。分からない言葉や文化はその場で確認するなど、日ごろから語学や日本文化について理解を深めようとする姿勢が感じられた。

出身地である大連市と岩手県との産業経済交流に関する研修を希望していたため、配属先と適切なマッチングを行うことができた。県が定める経済施策の方針と、地場産業や県内事業者の海外展開に向けた取組について、副知事の中国出張等への同行を通じて実践的に学ぶことができた。

短い期間での研修であったが、王研修員の優しく前向きな人柄による数多くの心のこもった交流を通じて、「中国とのネットワーク強化に資する人材育成と相互理解・親善友好関係の増進」という本研修事業の目的は十分に達成されたものと認識している。海外とのネットワーク強化については「いわて国際戦略ビジョン」（平成 29 年 3 月策定）において基本戦略の 1 つに位置付けており、今後も本事業を通し中国大連市とのネットワークの強化に取り組んでいく。



副知事中国出張同行



中国バイヤー等来県対応



岩手県林業技術センター職員との雲南省出張対応



大連ウイークイベント対応



# 「岩手県での忘れられない思い出」

氏 名 王曉晗

出 身 国 中華人民共和国

受入自治体 岩手県

研 修 先 岩手県商工労働観光部産業経済交流課



## 1. 本事業に応募した動機

私の出身地である中国の大連市は岩手県と2007年に「地域間連携の推進に係る協定」を締結しました。私は中国で大学時代は日本語科だったので、ずっと日本に憧れていました。今回、岩手県での研修を通じて、岩手県の文化、風土、経済発展の方法を学び、現地の皆様とふれあい、自分の能力を磨いていき、架け橋として両地域の友好関係に自分なりの力で貢献したいと考えました。

## 2. 研修の概要

### (1) 東京での研修

2023年（令和5年）5月21日に飛行機で東京に到着し、念願の日本にやっと来ました。翌日はLGOTPの開会式に参加し、先生方から日本の生活、文化、注意事項などの説明をしてもらい、自治体の担当者にも会いました。5月23日に他の研修員5人と一緒にクレアの先生たちの案内で浅草寺や秋葉原など東京の人気スポットを見学しました。

### (2) 滋賀県 J I AMでの研修

5月24日に滋賀県に移動し、大津市唐崎にある全国市町村国際文化研修所で一か月の日本語学習生活を始めました。この一か月は日本語勉強のほかに、日本に溶け込み、日本文化を理解するために、クレアは日野町の伝統文化やホームステイを体験するように手配してくれました。そして、唐崎中学校の学生との友好交流を通じて、自分の国の文化を伝えました。京都市市民活動センターでは、地震、台風、洪水、火災に備えた防災知識を学びました。最終発表の終了に伴い、私たちは充実した一か月の研修生活を終えました。皆さんそれぞれが学習成果を持って、自治体研修に期待を込めて取り組みました。

### (3) 岩手県での研修

#### ① 表敬訪問と歓迎会

6月22日に、岩手県国際交流協会の森屋さんはわざわざ滋賀県まで迎えに来てくれて、一緒に岩手県に移動しました。7月に私は達増知事、総務部長、ふるさと振興部長、商工労働観光部長と国際交流協会理事長にそれぞれ表敬訪問しました。指導者たちから励ましの言葉を頂いて、心から感謝しました。産業経済交流課、国際

室と国際交流協会はそれぞれ歓迎会を開いてくれました。皆さんの温かい優しさのおかげで最初の緊張感がだんだん消えていきました。

## ②国際室での研修

6月26日からの一週間は国際室で岩手県に関する概要、岩手県へ中国並びに台湾から旅客者を招く方法、国際室の業務、職員勤務条件などの講義を受けました。日本の勤務シフトはよく配慮されています。特に一月に入職したら年末までに20日間の休暇が取れます。特別休暇は短期介護休暇、忌引きなどさえもあります。6月27日に公会堂で岩手県国際交流員たちの研修を傍聴しました。6月28日に岩手県農林水産物の海外輸出施策の講義で私は「らら・いわて」という岩手の物産店を見学に行きました。らら・いわての店は水産物や南部鉄器などを売っていますし、岩手県の物産の豊富さに私は本当に感嘆して止まいません。6月29日に私は国際室の同僚たちと一緒に狛鼻溪を見学に行きました。私たちは船に乗って絶壁の景観を眺め、船頭のおじさんが狛鼻追分という歌を歌ってくれました。そこで、岩手県の自然の美しさに浸らずにはいられませんでした。6月30日に国際室の交流員は私に天満宮、八幡宮やバスセンターを見学に連れて行ってくれました。

## ③中国雲南省の青少年訪問団に同行

- 1、中尊寺で800年前の蓮の花の種が発芽した奇跡を見て、ガイドさんから千年前に金色堂が戦乱を絶って平和を祈願した建立の初志を聞きました。
- 2、小岩井農場を見学し、循環型農業モデルの強さは非常に学ぶ価値がありました。
- 3、岩手県の東日本大震災津波伝承館で東日本大震災津波の事実と教訓を学び、地震が起きたらどのように避難すればいいのかを学びました。
- 4、本場盛岡でわんこそばを食べました。食べる時にお椀に少量盛ってもらったおそばを掛け声と一緒に食べることは面白いです。私は36杯のわんこそばを食べて、証明証をもらいました。この食べ方は多くの観客を惹きつけています。
- 5、盛岡手作り村で経験豊富な職人の技と伝統工芸品、郷土の食やお菓子の制作風景を見学しました。特に南部鉄器の制作に感銘を受けました。
- 6、巖美溪で空飛ぶ「かつこう団子」を食べました。籠にお金を入れて木づちを叩くと、対岸の店から団子とお茶が飛んできました。対岸の店が中国の学生たちが来たと知って、中国の国歌を流してくれました。外国で国歌を聞けるなんてすごく感動しました。
- 7、県民活動センターで書道を始め、雲南省の紹介、文芸披露などを通じて県民交流活動が盛り上がりました。雲南省の学生の「中日青少年友誼長存」と書いた書道作品はとても人気がありました。
- 8、不来方高校合唱団の生徒たちは中国語で友達という歌を中国の青少年たちに歌ってくれました。この歌は皆さんが友達になりたいという願いを表していました。

## ④秋田県への出張

8月4日、畠山課長、佐藤さんと一緒に秋田県へ出張に行つて岩手県国際戦略ビジョンの策定に係り、詩の国秋田株式会社及び秋田県庁を訪問し、輸出戦略・事業等について聞き取り調査を行いました。秋田県の予算規模、実施体制ともに岩手県に近く、岩手県の国際戦略ビジョンの策定に際しては、大変参考になると思いました。

## ⑤宮古市への出張

8月9日に畠山課長、田口さんと一緒に宮古市へ出張に行きました。宮古市の市役所で講義を受け、宮古市魚菜市场も見学しました。沿岸都市であるからこそ、市場には新鮮な

魚介類がずらりと並んでいました。そこで、今まで見たことのない魚介類を目にして、岩手県の魚介類の多様性がわかりました。9月12日に岩手県沿岸水産加工業者向けのパッケージデザイン個別相談会が行われるので、私はまた食産業担当の紀香さんと一緒に宮古市に出張しました。今回の相談会を通じて、商品のパッケージデザインが商品の売れ行きに大きな影響を与えることがわかりました。

#### ⑥講演への出席

8月26日に図書館で自然災害伝承碑についての講演に出席しました。災害の様子や教訓を石碑やモニュメントに刻み、災害は同じ場所で繰り返し発生するケースが多いことから、人々の防災意識の向上のため、伝承碑が建てられるとわかって、本当に知恵があるやり方だと思いました。

#### ⑦星遠（大連）商貿有限会社の来県視察に同行

9月13日に星遠大連商貿有限会社の田董事長たちの食事会に参加しました。14日に私は田さんたちが部長に表敬訪問する会議で通訳を担当しました。特に会議中、田さんと岩渕部長のプレゼント交換や田さんから知事へのお祝い状を見て、友好関係を実感し、星遠大連商貿有限会社が将来、岩手県産品の大连での販売にもっと大きく貢献できると信じました。

#### ⑧中国雲南省民政庁訪問団の来県対応

12月13日に中国雲南省民政庁訪問団の来県対応をしました。訪問団と一緒に、にいやま荘、ハイム・ベルク、なごみの老人ホームにそれぞれ訪問し、日本の老人ホームの生活介護、健康管理、社交活動、医療看護などの面でも全方位的なサービスの専門化が訪問団にとっても称賛されました。13日の夜、私は訪問団の歓迎夕食会の司会に協力し、通訳者を務めました。雲南と岩手の友好に乾杯し、今後もお互いに訪問し、交流する機会が得られることを願いました。



図1：歓迎夕食会の通訳者を務めた写真

#### ⑨林業技術センターの成松さんとの雲南省出張

11月14日～20日、成松さんと私は中国科学院昆明植物研究所に誘われて、国際セミナーに参加しました。11月14日の午後、私たちはアミガサタケの林下栽培とビニールハウス栽培を見学し、二つの栽培方法のメリットとデメリットを知りました。16日に私と成松さんが別々に松茸について発表しました。成松さんと知り合って初めて、人工栽培ができない高価な松茸を知りました。成松さんのおかげでこの松茸について発表ができたのでとても嬉しかったです。18日と19日に红河農林複合生態実験場とプーアル市の農産物市場を見学しました。



図2：雲南省で発表した時の写真

#### ⑩アミガサタケとの縁

11月14日、中国雲南省でアミガサタケの林下栽培とビニールハウス栽培を見学し、11月24日、岩手県にアミガサタケ栽培技術の指導に来た趙先生が岩手県庁の農林水産部に表敬した時に、私は通訳を担当しました。そして、11月26日に私と成松さんは東京へ趙先生を見送りに行って、成松さんと趙先生の交流を通じて、私もアミガサタケに興味を持つようになりました。今年、2月20日、私は成松さんのアミガサタケ試験田が順調に進んでいると聞いたので、岩手県の林業技術センターに行って、成松さんのアミガサタケの試験田を見学しました。アミガサタケの人工栽培は複雑なため、異なる菌株を用いて、異なる気候や土壌環境で実験されています。私は専門家たちの専門性に感動しました。

#### ⑪ワンワールドフェスタに参加

11月12日に、私はボランティアとして国際交流協会の年に一度のワンワールドフェスタに参加しました。ワンワールドフェスタはその名の通り、多くの国の展示が行われました。タイ、エクアドル、オーストラリアやインドなどいろいろな国がコーナーを設けて自国の文化を紹介し、お客さんはそれぞれの国の文化を体験できました。一番人気があるフィリピンのダンスには多くの観衆が参加していました。私たちのグループは各国のフェアトレードの手芸品や、お菓子の販売を担当し、皆さんに製品を紹介する時、その国のメーカーのものづくりの初心もわかり、とても有意義な経験でした。

#### ⑫岩手県議会大連・雲南友好議員連盟「調査研究会」での発表

1月12日に、私は岩手県議会大連・雲南友好議員連盟「調査研究会」で中国の大連市について、それぞれ大連市の位置、概要、観光スポット、美食文化、大連市と岩手県の友好交流の歴史の5つの方面から発表しました。私の発表を通じて、皆さんに大連市をもっと知ってもらい、好きになってもらうことができ、光栄です。



図3：調査研究会での発表の写真

#### ⑬菊池副知事中国出張への同行

1月16日から19日まで、菊池副知事を始めとする岩手県訪問団と一緒に中国出張しました。1月17日、大連企画展示センターで解説者の説明のもと、大連市の建設の歴史、現状、今後の発展の方向性を知りました。アジア漁港は中国で有名な企業で水産加工技術が優れています。アジア漁港への訪問を通じて、岩手県とアジア漁港は今後、協力発展の機会を求めることに合意しました。17日の夜、岩手県訪問団は大連で岩手県ゆかりの遼寧省大連市の皆様との新年交流会を開催しました。私はこの交流会で前の大連市研修員たちに会い、岩手県との縁をみんなで語り合いました。17日と18日に、大連市市長と遼寧省副省長にそれぞれ会いました。指導者たちは岩手県と遼寧省の経済貿易、教育、人員往来などの面での交流が徐々に回復していることを喜ばしく表明しました。これから、双方は友好的な付き合いを絶やさず、新たな階段を上るために交流を促進することを希望しました。19日に訪問団は

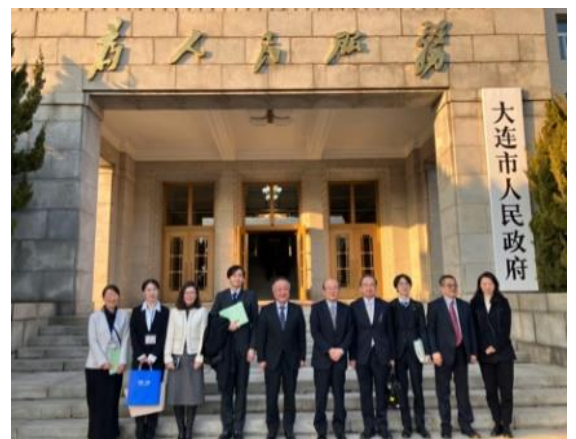


図4：中国出張の写真

飛行機で上海へ行き、大可堂会社を訪問しました。

#### ⑭インバウンドセミナーへの参加

2月5日に、私は観光・プロモーション室のインバウンドセミナーに参加しました。中国・香港市場への効果的な情報発信セミナー、「中国市場に向けたロコミの重要性『馬蜂窩』『大衆点評』をはじめとする SNS の特徴と活用等」をテーマとして、発表された内容を勉強しました。

#### ⑮いこいの村岩手温泉ホテルの見学

2月11日に、新年会で知り合った田中さんに誘われ、経営するいこいの村岩手温泉ホテルへ見学に行きました。田中さんはこの温泉ホテルを通じて、将来日中友好関連事業をしたいと考えています。私は中国から来た研修員として、田中さんの考えをととても支持しています。私たちは温泉ホテルの将来の計画について話しました。

#### ⑯海外情報発信取材

2月16日に、私と国際室の交流員たちはそれぞれ南昌荘のひな祭り、盛岡町家物語館、大慈清水、盛岡八幡宮、中の橋などを見学しました。最も印象的なのは盛岡啄木・賢治青春館で年表や当時の新聞記事などのパネルと映像で、啄木と賢治の生い立ちを知りました、賢治の「雨にも負けず」は私が一番好きな詩で、私が最初に暗唱した日本の詩でもあります。

#### ⑰大連ウィークイベントへの参加

2月26日から大連市日本で開催した大連ウィークイベントに参加しました。26日に私は岩手県の東京事務所所長と藤本部長に同行して、陳紹旺市長、成英俊主任と高雲広副局長にそれぞれ挨拶して、大連市中日友好人士懇談会と中日（大連）地方発展協力モデルパーク投資情報共有会に参加しました。27日の午後、私は受付として、大連グリーン低炭素化学産業交流協力推進会に参加しました。28日、長興島訪問団は伊藤忠商事大阪本社を訪問して、両方の協力可能性を検討しました。大連と日本が協力を深め、お互いに発展できることを心から願っています。

#### ⑱グランドセイコースタジオへの見学

セイコーの時計は中国大連市に支社があるので私はずっとこの企業に興味を持っていました。3月14日に雫石町のセイコースタジオを見学し、時計制作の流れを学び、企業文化を感じました。

#### ⑲団体活動、文化体験

8月に岩手県さんさ踊りという夏祭りに参加しました。約一ヶ月練習を重ねてその成果を発表しました。日本で初めてこのような祭りを体験しました。テレビのニュースで祭りの場面を見たことがありますが、実際に体験したら雰囲気は全く違い、皆で一緒に最後まで頑張って踊ったことはとても楽しかったです。4年ぶりに通常規模での開催となった「盛岡さんさ踊り」は195団体、およそ2万3,000人が参加し、現場の人出は113万人余りでコロナ前の水準を回復しました。この夏祭りで盛岡市の人気も高まっています。伝統行事の継承と発展はとても重要だと思います。

9月10日、私は県庁の職員さんたちと一緒に安比リレーマラソン大会に参加しました。

私はチーム 12 番目の選手として出場して、たった 2 キロとは言え、普段あまり運動しない私にとってかなりきつかったです。ランニング途中で急な坂道で 1 回歩いたら、皆の声援を受けて、勇気を出してやっと完走しました。リレーマラソンの精神は私たちを奮い立たせ、このチーム精神は仕事の時も同じです。

### 3. 帰国後の展望

岩手県で強く印象に残ったことは三つあります。一つ目はご当地のキャラクターです。岩手県にはそばっちななど代表的なキャラクターがあります。地元の認知度を高めようと地元のキャラクターを生み出すことは魅力的です。二つ目は岩手県の特産品の多様性です。岩手県には果物をいろいろなお菓子やジュース、お酒に加工したり、魚介類を缶詰や前菜などに加工した特産品が多いです。特産品を食べたり、使ったりすることで岩手県を身近に感じられます。三つ目は沢山の伝統行事です。岩手県の中の市町村にも代表的な伝統行事があり、行事が行われる度に多くの地方から観光客が訪れ、魅力発信に繋がります。

帰国したら、今回の研修を通して体験した岩手県の美しい自然風景、新鮮で豊かな特産品、夏祭りのような県を上げて盛り上がる伝統文化などを大連市の人々に伝え、岩手県と大連市両地域の架け橋として友好交流に貢献したいと思います。

# 「自治体職員協力交流研修員の受入れについて」

自治体名 岐阜県  
研修員名 陳徳根  
出身国 中華人民共和国  
研修分野 森林・林業  
研修期間 6か月  
主な研修先 岐阜県林政部

## 1 背景・目的

本県では、昭和63年に中国江西省と友好提携を結んで以来、各分野で提携交流を行っており、森林・林業分野でも、これまで研修員の受入れ、植樹事業、木育活動等の取組みを行ってきた。平成30年には岐阜県林政部と江西省林業局との間で、友好提携30周年を機に、両省県の森林・林業分野における更なる交流の促進のため、「岐阜県林政部と江西省林業局との林業分野での交流促進に関する覚書」を締結している。

本事業を通じて、中国江西省からの研修員を受入れ、研修員から中国における林業の現状や林業行政の知見を得るとともに、研修員に本県林業の現状や林業行政などの知見を得てもらうことにより、今後の本県と江西省との森林・林業分野の交流における中核人物となることを期待している。

## 2 研修の概要

令和5年5月21日（日）に来日し、一般財団法人自治体国際化協会によるオリエンテーション、日本語研修ののち、県林政部にて実地を交えながら、森林・林業行政全般の研修を実施。

<主なスケジュール>

日時	研修内容	研修場所
6月22日～26日	生活環境整備等	研修員宅等
6月27日～7月7日	林政部の取組み紹介・視察等	県庁等
7月8日～8月16日	森林研究所にける研究紹介等	森林研究所
8月18日～10月30日	森林教育研修・授業体験	森林文化アカデミー
11月1日～22日	課題実習・青少年交流	森林文化アカデミー
11月24日	研修報告会、修了式	県庁
11月25日～30日	帰国準備、帰国	研修員宅等

## 3 研修実施にあたって工夫、苦労したこと

新型コロナウイルスの影響で本県林政部での研修員の受入れ実績が長くなかったことから、海外からの研修員の受入れにおけるノウハウがなく、長期間の受入れにあたり、研修員本人の希望する分野での研修のみでの研修の実施が困難であったことから、研修内容の具体的な策定に苦勞した。また、国際交流担当部署による受入れではなかったことから、文化の違い等の理解が十分ではなく、日常生活での支援の内容や方法の検討に苦勞した。しかしながら、国際交流担当部署や林政部内各課、民間企業等、多種多様な関係者に協力をいただくことで、様々な角度から本県の森林・林業行政の現状や取り組みを研修員に伝えることができた。

また、研修期間が長期にわたることから、通訳については一部のみとしたが、専門的な分野の研修であったことから意思の疎通に苦勞した。しかしながら、研修員が継続して日本語学習に取り組んでおり、国際交流員の協力や翻訳アプリ等を活用することにより専門分野であっても一定程度の意思疎通ができた。

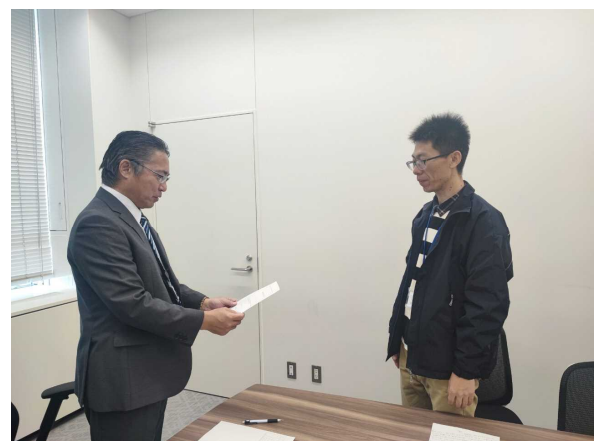
#### 4 成果・課題

本県では、研修員に今後の両省県の森林・林業分野での交流における架け橋となることを期待して研修を実施したところであるが、研修期間中には両国の林業の現状や林業行政について知見を共有しあい、江西省から林業学生が来日された際には、積極的に日本で学んだ知識を学生に伝えるなど、随所で、将来、架け橋となることが期待できるような活躍をした。

熱心に日本語の勉強も続け、研修終了時には、会話の内容がある程度理解できるようになっており、研修報告会や報告書でも今後の展望として、架け橋となる意思を表明していることから、今後の江西省林業局との交流において更なる活躍を期待している。



研修報告会の様子



修了証授与の様子



きょうりょくこうりゅうけんしゅういんけんしゅうほうこくしょ  
協力交流研修員研修報告書

「日本の林業知識を研究学習する旅」

氏名

Chen Degen

出身国

中華人民共和国 (正式名称をお書きください)

受入自治体

岐阜県 (自治体名は都道府県から)

研修先

岐阜県 林政部



1 本事業に応募した動機

1988年江西省と岐阜県は正式に友好都市となった。35年来、交流教育を深く展開し、互いに利益のある互惠の成果を多く上げてきた。林業分野では、双方が「記念植樹」、「木育教室」等の活動を何度も行い、協力交流は双方の林業事業に手本、参考となるものを提供している。

私は一人の林業エンジニアとして、林業事業の発展の為に自分の力で貢献することを追い求めている。日本は林業強国であり、日本の林業の進んだ理念と実践の技術を学び、江西省の林業の質の高い発展を促進する為に、今回の研修活動に応募した。林業を橋渡しとして、更に双方の交流と信頼を促進したいと思っている。

2 研修の概要

(1) 全体研修 (クレア) 2023年5月22日～6月23日

① 東京での研修

日本の行政組織機構の紹介、東京都庁、駅の見学

② 滋賀県での日本語及び日本文化の研修

日本語の学習、日本の伝統文化の交流学习 (茶道、食文化等)、ホームステイ (日本人の本当の生活を理解する)、防災

(2) 専門実務研修 2023年6月24日～11月30日

① 岐阜県林政部での研修

主に日本の地方政府の林業行政の組織構造、職責、森林資源の状況及びどのような施策を通じて林業事業の発展を推し進めるのか等の面を理解、学習した。具体的には岐阜県の林政部の組織構成、人員構成、岐阜県森林資源の全体状況及び日本全体に占める比重と位置、岐阜県林政部が現在行っている主な仕事及び将来の主な計画等を学ぶことができた。

学習を通じて、岐阜県の林業は全体的に一級のレベルにあり、各仕事が出出して、「木の国・山の国」を打ち出し、県民の為に良好な生態環境を創造していることを理解することができた。

## ② 岐阜県森林研究所での研修

岐阜県森林研究所は岐阜県唯一の森林の研究開発と進んだ林業技術の提供を柱とする研究型の組織である。ここで1か月クラスに加わって学んだ。行った実験内容と方向は以下の通りである。

異なる肥料の育苗効果の実験、間伐の水源維持に対する補給機能の実験、植物病虫害の抑制と予防、広葉樹の自然生長能力の実験、地形表現図等。短い1か月という時間であったが、出張は15日に及び、業務と同時に異なる地域の伝統文化も知ることができた。森林研究所にいた期間で、印象深いのは、研究員が長期に渡り1つの方向に向かって何年も何カ月も研究を行い、豊かな成果を上げて、地方の林業の発展に技術的なサポートを提供している点である。

## ③ 岐阜県森林文化アカデミーでの研修

岐阜県森林アカデミーは2年制の林業専門学校（職業教育）で、森林と木材に関係がある分野で活躍できる専門技術のある人材を多く養成している。ここで4か月に及ぶ専門の学習を行った。学習した主な内容は以下の通りである。アカデミーの運営モデル及び教育理念、森林植物の識別、森林害獣の予防と抑制、木工製作、木造建築、森林環境教育、森林土壌等の面。

### ○ 森林環境教育

森林環境教育は学習した主な内容の一つで、合計3つの幼稚園、2つの小学校で自由な木工の体験活動を行い、子供達に森林の楽しさを伝え、先生と一緒に特殊教育学校の教員の心の健康森林体験活動を計画し、ぎふ木遊館、森林文化アカデミー、モリノスを見学した。学習を通じて、岐阜県の木育のシステム、付属施設、運営施策等を理解することができた。また、岐阜県の木育が児童の成長段階に注目し、学生、親、高齢者とグループ連携を確立し、森林サービス産業との有効的な融合を実現し、生涯教育の最終目標に達していることを知ることができた。

### ○ 木材と木工製作

学習を通じて、日本の木造建築の歴史と現状及び今後の発展の趨勢、学生の木造建築と木工専門のカリキュラムの設置状況、就業のルート、教員の研究の方向を知ることができた。

日本は木造建築と木造住宅が比較的多いので、耐震、新築、リフォームの面で深く研究を行い、実際のオペレーションをする必要に迫られており、学生は2年間の学習を経て、卒業後、住民の為により良い提案をすることができる。

岐阜県は木材資源が豊富で、木製品の加工技術が成熟していて、しゃもじ、椅子、家具、玩具と種類が多様で、精緻で、実用的である。学習期間中にしゃもじや椅子の製作に6度参加し、伝統的な手作りの難しさを体験し、教師と学生達の少しもいい加減なところがない真面目な態度を感じることができた。この他にも、毎年度の学生の自力建設プロジェクト（廊下、階段、休憩

室)がキャンパスの至る所に保存されており、全校生徒、教師の安全を守るだけでなく、皆の生活を便利にし、学生に鍛錬する機会を与え、学校の中に「1つ目の作品」を完成させる、このような教育モデルは推薦、学習するに値する。

### 3 帰国後の展望

#### (1) 林業専門方面

○ 日本の森林環境教育は着手が早く、森林サービス産業と友好的に融合していて、現在自然学校、森のようちえんが各地に分布している。岐阜県での学習を通じて、組織構造、運営モデル及びカリキュラム体系を理解することができた。帰国後、まず報告と交流を行い、岐阜県の木育のトップダウン設計と具体的なオペレーションを宣伝し、中国の森林環境教育の内容を豊富にする。次に森林セラピー産業の中で専門の強みを発揮し、地元の実際の状況に合った森林スポーツカリキュラム、作業療法等を創造し、もっとたくさんの児童、親御さんを自然に溶け込ませて、森林がもたらす幸福を楽しんでもらいたい。



岐阜県林政部での行政組織研修の写真

#### ○森林経営

岐阜県の森林経営の理念は進んでいて、各段階での森林作業の施策は有力である。帰国後、まず今回岐阜県林政部が派遣する専門家の江西省での視察学習の機会を利用し、同時に日本の林業の優れたやり方の宣伝と説明を行い、中日の林業の違いを比較紹介する。次に今後の実際の仕事の中で、学んだ内容を企画設計と森林資源調査の中に取り入れて、長所を以って短所を補い、今後の江西省の林業の発展の為に、新しい活力を注入する。3つ目に岐阜県で学んだ期間に書いた7万字のメモと報告を整理して、本にして出版し、もっとたくさんの人に日本の林業を理解してもらい、日本の林業を通じて江西省ないしは中国の林業を啓発したい。

#### (2) コミュニケーション交流方面

##### ○ 日本語の勉強を続ける

今後、日本語の勉強を続け、コミュニケーション交流を強化し、日本文化をより良く理解したい。

##### ○ 仕事の交流を強化する

今後、岐阜県林政部と林業専門における仕事の交流を強化し、岐阜県日中

協会と双方の交流訪問における仕事の交流を強化し、森林研究所、森林文化アカデミーの職員との仕事の交流を強化したい。

○ 地元の活動に参加する

地元の中日間の各活動に積極的に参加し、中日間の友好の為に架け橋となり、道を開きたい。



学生が設計し建てた木造建築を見学



学生と一緒にしゃもじを作る

## 「令和5年度自治体職員協力交流研修員の鳥取県研修」

自治体名 鳥取県  
 研修員名 田碩実（デンセキジツ）  
 出身国 中華人民共和国  
 研修分野 国際交流、まんが行政、観光行政、文化財行政 等  
 研修期間 10か月  
 主な研修先 鳥取県輝く鳥取創造本部観光交流局交流推進課  
 鳥取県輝く鳥取創造本部まんが王国官房  
 鳥取県輝く鳥取創造本部国際観光・万博課  
 鳥取県輝く鳥取創造本部観光戦略課  
 鳥取県地域社会振興部文化財局文化財課  
 鳥取県地域社会振興部文化財局とっとり弥生の王国推進課  
 鳥取県立博物館

### 1 背景・目的

鳥取県の国際施策は「国内外の多様なチャンネル・分野での交流を通じた地域活性化の推進」であり、本事業を通じて、研修員に本県が持つノウハウを習得させるとともに、派遣元自治体と人的交流を深めることで、本県の国際交流施策への協力を得ることを期待している。

### 2 研修の概要

研修期間（全体）	令和5年5月22日～令和6年3月22日（約10ヶ月間）	
研修期間（詳細） 及び受入先	期 間	受 入 先 等
	5月22日	来日
	5月～6月	JIAMでの日本語研修（滋賀県）
	6月22日	来県
	7月	交流推進課での研修
	7月28日	知事への着任挨拶
	7月31日	西日本地区中日友好交流大会に参加（香川県）
	8月	まんが王国官房での研修
	8月14日	しゃんしゃん傘おどりに参加
	9月	国際観光・万博課での研修
	9月22日	中華人民共和国建国74周年祝賀レセプションに参加（大阪府）
	10月～11月	観光戦略課での研修
	12月～1月	文化財課、とっとり弥生の王国推進課での研修
2月	県立博物館での研修	
3月	交流推進課での研修	
3月22日	帰国	

### 3 研修実施にあたって工夫、苦労したこと

#### (1) 生活面

田研修員は学生時代に日本の大学への留学経験があり、日本語能力が非常に高かった。また日本文化の理解及び日本の生活への適応にも何ら問題は無かったため、生活面での支援は必要最小限で済んだ。県担当者とは常に連絡が取れるよう SNS で繋がっており、また生活面のサポートを鳥取県国際交流財団の担当者に委託しており、定期的に面談を行って健康状態の変化や悩みに対処できる体制を整えていた。

また田研修員は日本の武道に大変関心が深く、平日の研修終了後や土日を利用して道場に通い、柔道、剣道、居合道の稽古に勤しんだ。研修だけでなく趣味も楽しむことができる環境であり、充実した派遣生活を送った。

#### (2) 研修面

田研修員は本国での派遣元所属が、「文化ラジオテレビ旅行局」ということで、鳥取県での研修分野について、観光行政、文化行政を希望していた。田研修員の希望に添えるよう、観光交流局、文化財局、県立博物館での研修を設定し、なるべく実務型の研修が受けられるようにしたところ、田研修員からも派遣元所属での業務に活かすことのできる有益な研修であったと感想をいただいている。

田研修員には、研修以外にも「鳥取しゃんしゃん祭り」へ参加いただくなどし、鳥取県の伝統文化を知っていただくとともに、鳥取県に愛着を持っていただくためのきっかけづくりを提供した。そのほか、鳥取県庁の中国事業関係部署の職員等との交流の機会も設定し、人的関係の構築にも努めた。



鳥取砂丘での訪日観光客出迎え

### 4 成果・課題

鳥取県は平成 11 年度から自治体職員協力交流研修員として中国吉林省から研修員を受入れており、これまで受入れた研修員は田研修員を含めて 21 名にのぼる。研修員は帰国後も本県と吉林省との交流を継続・深化させる上で、必要不可欠の人材である。本県と吉林省は平成 6 年度に友好交流を開始し、令和 6 年度で友好交流 30 周年を迎える。これまでの交流の歴史を振り返る上で、本事業による人的交流の成果は欠かすことのできないものとなっている。

今後も環日本海地域の友好交流地域である中国吉林省と幅広い分野で交流を促進し、交通インフラ、物流ネットワークの構築、両地域の経済発展の成果の共有等、国際感覚を育み両地域が世界に開かれた地域となることを目指し、国際交流を積極的に推進していく。

## 令和5年度鳥取県での研修について

氏名 田碩実（田碩実）  
出身国 中華人民共和国  
受入自治体 鳥取県  
研修先 交流推進課（6.23-7.31）  
まんが王国官房（8.1-8.31）  
国際観光・万博課（9.1-9.30）  
観光戦略課（10.1-11.30）  
文化財課、  
とっとり弥生の王国推進課（12.1-12.31）  
鳥取県立博物館（2.1-2.29）



### 1. この事業に応募した動機

私の出身地である吉林省は鳥取県と1994年（平成6年）から経済、教育、文化などの分野を中心に友好交流を行っており、2017年（平成29年）に友好県省提携を締結しました。

今回、鳥取県での研修を通じて、鳥取県が取り組んでいる地域の活性化のための経済政策や、観光客を誘致する宣伝戦略を学び、吉林省四平市のPR活動に活用し、より多くの人々に四平市の魅力を知らせていただき、よりよい観光環境を整備し、私の地元の経済成長に貢献したいと思い、事業に応募しました。私はもともと日本への留学経験があり、日本語も話すことができ、日本の文化に大変興味がありました。

### 2. 研修の概要

2023年（令和5年）5月21日に東京に降り立ちました。4年ぶりに日本に来たときの心が躍る気持ちを今でも鮮明に覚えています。翌日、東京の四谷のビルで先生方から日本の生活、文化、注意事項などの説明があり、中国、ベトナム、インドネシアから集まった6名の研修生は、日本での新しい生活を体験することになりました。東京での研修期間中には東京の秋葉原と国会議事堂を見学しました。

5月22日、滋賀県大津市唐崎にある全国市町村国際文化研修所に移動し、ここで1ヶ月間、日本語の授業を受けました。1ヶ月は短い時間でしたが、勉学、茶道体験、ホームステイ体験、観光、スポーツなど毎日とても充実していました。

週末にはクレア主催で行われた日本の生活体験に参加しました。滋賀県日野町での伝統文化体験やホームステイを通して日本の生活、食文化、礼儀作法やマナーについて学びました。また、京都市市民防災センターでは、地震、台風、洪水、火災についての研修を通して災害時の対応を学ぶことができました。



全国市町村国際文化研修所での研修

最後の発表会では各研修員の発表を通して、日本とそれぞれの母国の文化、歴史、生活スタイルに関して理解することができました。この1ヶ月の研修で、鳥取県での研修への期待もますます高くなりました。

6月21日に鳥取県に移動しましたが、その日はとても暑い日でした。鳥取県国際交流財団の方をはじめ、多くの日本人の方々から様々なことを紹介していただき、鳥取県庁での研修と日本語の勉強が始まりました。

以降は鳥取県での研修生活について述べさせていただきます。

#### ○交流推進課での研修（6.23-7.31）

- 6.29 智頭町で石谷家住宅を見学
- 7. 4 鳥取県立博物館、仁風閣を見学
- 7. 6 鳥取わらべ館、鳥取県立図書館を見学
- 7.12 渡辺美術館、鳥取砂丘、砂の美術館を見学
- 7.18 香港、台湾の方々と会食
- 7.20 鳥取砂丘、砂の美術館、鳥取砂丘コナン空港、白兔神社を見学
- 7.25 むきばんだ史跡公園を見学
- 7.28 平井伸治鳥取県知事と面談
- 7.31 香川県高松市へ出張し、第6回西日本地区中日友好交流大会に参加

交流推進課では以上の様に様々な研修をしました。私が特に印象深かったのはやはり香川県への出張でした

中国と日本の各代表者が各地の技術の発展状況、研究成果を発表、交流しました。国の文化は異なりますが同じ目標を掲げていました。それは産業振興や技術開発を通して豊かな生活を作り出すことです。

#### ○まんが王国官房での研修（8.1-8.31）

「まんが王国官房」のような課は中国の政府機関にはありません。このような課は日本国内でも鳥取県だけだと聞きました。日本の漫画は中国でもとても人気が、私は幼少期から日本のアニメを見て育ちました。まんが王国官房は漫画でパンフレットとポスターを作成して、鳥取県を宣伝しています。



8月の研修で一番印象深かったのは、鳥取しゃんしゃん祭りに参加したことと名探偵コナン祭りにスタッフとして参加したことです。

- 8. 2 倉吉市、米子市の見学
- 8. 14 鳥取しゃんしゃん祭りに参加
- 8. 17 倉吉市へ出張
- 8. 19 名探偵コナン祭りにスタッフとして参加
- 8. 25 交流推進課主催の歓迎食事会に参加
- 8. 26 国際声優コンテスト声優魂にスタッフとして参加

私は踊りはまったくの素人でしたが、日本人の先生たちに踊りのいろはから指導していただきました。おかげでみなさんの前で踊りを披露できました。生まれて初めて日本でこのような祭りに参加できました。テレビのニュースで祭りの場面を見たことがあります。実際に体験してみると雰囲気は全く異なり、大勢の方々と一緒に最後まで頑張ることができ、とても楽しかったです。伝統文化の継承と発展は非常に重要だと思いました。

名探偵コナン関連のイベントは2016年（平成28年）に東京で行われたイベントに参加したことがございます。その時は来場者として、今回の名探偵コナン祭りではスタッフとして参加しました。そのため、来場者としてはできない様々な手伝いができ、いろいろ勉強できました。



鳥取しゃんしゃん祭りに参加  
(亀井鳥取県副知事と)

#### ○国際観光・万博課での研修（9.1-9.30）

- 9. 4 鳥取県の観光地関連の資料の翻訳
- 9. 11 鳥取県の観光地関連の資料の翻訳
- 9. 12 ボランティアとして、中国、台湾の旅行会社の方々を横断幕等で歓迎
- 9. 22 大阪府で中華人民共和国建国74周年のイベントに参加
- 9. 26 中国からの旅行団を砂の美術館で横断幕等で出迎え
- 9. 26 岩美町の観光地を見学
- 9. 27 鳥取県の観光地へのバス・電車のルートに関する資料を作成

私は国際観光・万博課での研修では、鳥取県の観光資料を中国語に翻訳し、横断幕を持ち、中国からの観光客を歓迎しました。一番印象深かったのは、やはり大阪府で中華人民共和国建国74周年のイベントに参加したことです。そこで日本人の方々と両国の友好について話しました。

## ○観光戦略課での研修（10.1-11.30）

- 10.16 鳥取砂丘で砂丘観光事業者意見交換会に参加
- 10.17 倉吉市でコンベンションセンター県・四市担当課の会議に参加
- 10.18 倉吉市で「ユニバーサルツーリズム鳥取モデル」の会議に参加
- 10.19 米子空港でフジドリームエアラインズ（FDA）のチャーター便（新潟発米子行き）の出迎え
- 10.25 大山町でサウナの取材を見学
- 10.30 旧国鉄倉吉線廃線跡を見学
- 10.31 令和5年（2023年）度第三回鳥取市観光大学運営会議を見学
- 11.8 らっきょうの花を見学
- 11.10 令和5年（2023年）度市町村観光担当会議に参加
- 11.13 鳥取砂丘コナン空港航空機利用・地域交通戦略（第一回）移動活動合同作業部会に参加
- 11.14 鳥取商工会議所で南紀白浜空港セミナーの会議に参加
- 11.16 鳥取県観光連盟・県中部周辺を見学
- 11.23 タイムフェスティバルに参加、居合道の演武を披露
- 11.30 鳥取砂丘コナン空港でFDAチャーター便の出迎え

私は観光戦略課で二ヶ月間研修を受けました。これは私が中国で同じような仕事をしてきたためです。中国で仕事をした際には、よく民族衣装を着用し、街でチラシを配りました。そのため、米子鬼太郎空港や鳥取砂丘コナン空港でFDAのチャーター便の出迎えをしたときは懐かしい感じがしました。



鳥取砂丘コナン空港でのチャーター便対応

また、私は日本の武道を稽古しています。特に日本刀が好きで、今回のタイムフェスティバルに参加した際に、何年かぶりに居合道の演武をしました。

## ○文化財課、とっとり弥生の王国推進課での研修（12.1-1.31）

- 12.5 倉吉市で展覧品の整理に関する研修
- 12.6 むきばんだ史跡公園で研修
- 12.7 とりぎん文化会館でむきばんだ史跡公園展覧品の整理
- 12.8 とりぎん文化会館でむきばんだ史跡公園のチラシ配り
- 12.11 若桜町で仏像の研究
- 12.12 鳥取県立博物館で遺跡の研修
- 12.14 因幡万葉歴史館で展覧品の整理
- 12.18-12.20 青谷かみじち史跡公園で研修
- 12.21 あおや和紙工房で和紙作りの研修
- 1.10 むきばんだ史跡公園の弥生時代の資料を中国語に翻訳
- 1.15 埋蔵文化財センターで資料整理の研修

- 1.16 埋蔵文化財センターで鳥取県の遺跡現場を見学
- 1.17 埋蔵文化財センターで古銭について勉強
- 1.18 埋蔵文化財センターで木造製品の保存方法について勉強
- 1.19 埋蔵文化財センターで木造製品のクリーニング方法について勉強
- 1.23 むきばんだ史跡公園の弥生時代の資料を中国語に翻訳
- 1.26 文化財の消防知識について勉強

両課では考古学と鳥取県の文化についての仕事をしました。私は特に埋蔵文化財センターで考古学についての研修を受け、自分の手で古銭を整理して、木材を保存する方法を勉強できて、すごく嬉しかったです。また、文化財の消防知識も勉強しました。

#### ○県立博物館での研修（2.1-2.29 最後の研修）

- 2.1 資料カードに写真を貼り、資料を中国語に訳して、展示室を見学し、研修を受けた
- 2.2 八頭町で資料整理の研修
- 2.9 県立博物館で根本幽峨の作品を見学
- 2.13 軍服の資料整理の研修
- 2.15 鳥取市歴史博物館やまびこ館で化石の資料を整理
- 2.17 博物館で甲冑の講座に参加
- 2.26 兵庫県浜坂町の貝殻を博物館へ移送
- 2.28 米子市の展示品を博物館へ移送
- 2.29 渡辺美術館で刀を見学し、県立博物館の軍服を見学

今回の研修を通して、県立博物館は日本の化石、軍服などの資料を総合的に学び、体感できると知りました。解説を聴いたり、ワークブックにコメントを記入したり、先生と意見交換をしたりしながら、先史・古代から現代に至る展示を見学しました。

これは業界についての理解を深める貴重な機会でもあり、学んだ知識を理解し、仕事に活かせると感じました。私にとって印象深かったのは、根本幽峨の作品を見学したことで甲冑の講座に参加したことでした。

### 3. 帰国後の展望

鳥取県庁交流推進課をはじめ、皆様に親切にご指導していただき、大変勉強になり、とても充実した研修生活を送ることができ、とてもいい思い出になりました。お世話になった皆様に心から感謝申し上げます。

中国に帰国しましたら、今回の研修を通して体験した鳥取県の美しい自然風景、新鮮で豊かな特産品、しゃんしゃん祭りのような町を挙げて盛り上げる伝統文化などを吉林省の人々に伝え、鳥取県と吉林省両地域の架け橋として友好交流に貢献したいと思います。

# ビンズン省と山口県の交流の架け橋として

自治体名 山口県  
研修員名 ドアン・ディン・カン  
出身国 ベトナム社会主義共和国  
研修分野 一般行政、国際交流  
研修期間 6ヶ月  
主な研修先 山口県観光スポーツ文化国際課

## 1 背景・目的

山口県とベトナム・ビンズン省とは、2014年12月に「友好・協力に関する覚書」を締結して以来、幅広い分野で交流を深めてきたところである。

覚書締結5周年を迎えた2019年、ビンズン省訪問団来県時両トップ会談を行った際に、今後さらに友好を深めていく交流事業の一つとして行政分野における人材交流の提案がなされ、両県省の交流の架け橋となる人材を育成することを目的に、LGOTP事業を活用しビンズン省から若手職員を研修員として受け入れる運びとなった。

当初は、2020年に事業実施を予定していたが、新型コロナウイルス感染症の世界的な感染拡大により3年の間事業実施を見合わせ、コロナ禍が収束に向かった本年2023年、ついに事業実施に至ったものである。

## 2 研修の概要

- 本県の組織や事業についての学び  
国際課における研修に加え、大学生の就業体験（インターンシップ）に受講者として参加、山口県議会本会議の傍聴、国際交流行事に参加 など
- 翻訳・通訳業務
  - ・「山口県多文化共生推進指針」策定にかかる県内外国人へのアンケートの広報チラシ・周知動画作成（ベトナム語）や関係機関ヒアリング（ベトナム語対応）
  - ・山口県の観光動画の字幕作成（ベトナム語）
  - ・大学生の就業体験（インターンシップ）におけるベトナムの紹介
  - ・日越外交関係樹立50周年記念にかかる両県省の相互訪問行事
- 各種研修への参加  
外国人住民等相談窓口対応研修、海外展開支援セミナー ほか
- 視察  
海外サポートセンター、農林総合技術センター、高齢者福祉施設 ほか
- 日本文化体験
  - ・着物体験、抹茶体験、工芸（萩ガラス、金魚ちょうちん）体験
  - ・地域のお祭り等（山口祇園祭り、あいおえび狩り世界選手権大会）参加

## 3 事業実施にあたっての工夫など

カン研修員は、ベトナム・ビンズン省外務局海外サービスセンターから派遣され、6月下旬に受入先である観光スポーツ文化国際課において研修を開始した。

過去、日本で働いた経験があったことから、生活面で困惑する場面はなかったようである。日本語について日常会話では問題なかったものの、当初は日本語研修を組み入れる予定であったが、本人から「日本語研修でなく、色んな人と実際に話して実践的な日本語のスキルを身につけたい。」との強い希望があり、なるべく多くの人と話す機会を職場内外ともに設けるようにした。

また、本人が希望していた県内企業の海外進出に関する取組みを知る機会（海外展開支援セミナー、海外サポートセンター視察など）をなるべく多く設け、ベトナムにはない高齢者福祉施設等の視察などを取り入れた。

日本文化体験や地域のお祭り等参加時には、山口県海外技術研修員（本県事業）や国際交流員と一緒に参加できるようにするなど、他国から来日している外国人同士の交流の機会を設けるよう配慮した。

さらには、11月上旬のビンズン省訪問団来県の際には、司会進行などの通訳業務に携わる機会を設け、両県省の公式の場における実務経験を積んでもらった。

#### 4 成果・課題など

カン研修員は、大変真面目でとても勉強熱心であり、業務においてはもちろんのこと業務外でも部内レクリエーション大会への参加やバトミントンサークルへの参加、書道や尺八の稽古に自発的に通うなど、自ら積極的に行動する姿勢が随所に見られた。いつも笑顔で職場の雰囲気をも明るくし、いつのまにか職場外にも多くの知り合がいるなど、そのコミュニケーション能力の高さに驚かされたものである。

また、本年開催されたビンズン省主催日越外交関係樹立50周年記念イベント「Meet Japan 2023」で、山口県の観光・物産をPRするために出展したブースにおいて、カン研修員には来場者に対する通訳としてブース運営に大きく寄与いただいた。来場したベトナムの方々に山口県の魅力をしっかりと伝えることができ、来場者に満足して帰っていただけたのは、カン研修員の功績と言っても過言ではなく、両地域における一層の相互理解が深まったと確信している。

本県とビンズン省は、来年覚書締結10周年を迎える。カン研修員が、今後、山口県とビンズン省の交流の架け橋となり大いに活躍いただくとともに、両県省の交流がさらに深化し、共に永く発展していくことを期待している。



知事との面談の様子



「Meet Japan 2023」山口県ブースにて

# 研修報告書

## 山口県とビンズン省との自治体職員協力交流事業

氏 名：ドアン・ディン・カン  
出身国：ベトナム社会主義共和国  
受入自治体：山口県  
研修先：山口県観光スポーツ文化国際課



### 1 本事業に応募した動機

山口県での研修で得られた知識や経験を参考にすることは、ビンズン省における効果的かつ専門的な行政システムの構築という目標を実現する上で非常に有意義であります。そして、協力関係を強化し、地方自治体の発展に貢献し、各組織の国際化を促進し、両省県間の相互理解を強化します。総務省、自治体国際化協会（以下「クレア」）のご支援により、私は2023年にビンズン省を代表して「自治体職員協力交流事業」に研修員として参加できることを光栄に思い、誇りに思います。

### 2 研修の概要

#### (1) 東京研修（クレア）（2023/05/22～2023/05/23）

日本事情（生活する上での注意点等）の説明を受け、「自治体職員協力交流事業」の昨年度の事例発表（鳥取県）を聴講しました。

他の研修員と交流し、都内（東京都庁、浅草、秋葉原など）を視察しました。

#### (2) JIAMでの研修

2023/05/24 から2023/06/22 まで全国市町村国際文化研修所（JIAM）で研修しました。JIAMでの1ヶ月間で、私は日本語の知識、文化、社会情報、生活スキルをたくさん学びました。

○ 日本語クラス：毎日、私は語彙、文法、一般的な文を使って日本語を勉強しています。毎日の語彙、漢字テスト、毎週金曜日の一般テスト、そして

（JIAM）の先生方の熱心な指導により、私の知識、語彙力、コミュニケーション能力が大幅に向上しました。

#### ○ 茶道文化体験（2023/05/31）

最初はお菓子の食べ方、茶碗の扱い方、お茶の正しい飲み方まで、何もかもが戸惑いました。茶道文化体験を通じて、茶道の成り立ちの歴史、茶道道具、淹れ方、お茶の飲み方などの知識を学び、お茶を楽しむ和室空間を体験しました。

#### ○ 所外学習

- ・京都府の防災センターで防災学習を受講しました。（2023/06/07）
- ・ホームステイ：地元の人々との生活を体験しました。（2023/06/10 -2023/06/11）
- ・滋賀県唐崎中学校の生徒たちと交流しました。（2023/06/19）。



（JIAM）閉校式記念写真

(3) 専門研修（山口県国際課での研修：2023/06/22 -2023/11/29）

山口県での研修。印象深かったものを、以下、記します。

**海外展開支援セミナー参加(2023/08/03)**

このセミナーは、県内の中小企業がシンガポール、マレーシア、インドネシア、ベトナムなどの新しい投資市場に関する、より多くの情報と知識を得て経営指導、支援する橋渡し役として機能します。それで、企業は規模、産業、経営市場の拡大にさらに自信を持てるようになります。

**「観光スポーツ文化部署紹介」※インターンシップ参加（2023/08/21 - 2023/08/25）**

私は各部署の専門知識や仕事の特徴についてさらに深く知ることができました。各部署の代表者の意見を聞き、作業過程での経験を共有しました。プログラムは仕事をして問題を解決する過程で、貴重な知識と有益な教訓を私に与えてくれました。

**「観光スポーツ文化部署就業体験」※インターンシップ参加(2023/08/28 - 2023/09/01)**

宇部市にある山口宇部空港の施設を見学し、学ぶ機会がありました。そして、山口県埋蔵文化財センターで館内見学、土器接合作業を体験しました。この就業体験を通じて、考古学の研究についてさらに理解し、人々が古代文化と社会を形成した歴史的過程を認識し、評価することができました。そこから、彼らが作成したツールや製品に感心しました。

**ビンズン省の訪問団が山口県を訪問(2023/11/01)**

研修期間中、ビンズン省の訪問団が山口県を訪問しました。ホスト側として、歓迎する機会があり、とても嬉しく思いました。交流の場では、司会の通訳などを担いました。

(4) 山口県でのイベント

**山口市商店街の祇園祭り（2023/07/24）**

幸運なことに日本のお祭りに参加するのは初めてで、大きな喜びと興奮を感じました。このお祭りは、私に新しい友達、興味深い知識、そしてここの文化のお祭り、人々に対するさらなる愛情をもたらしてくれました。

**楽しいモルックゲーム（2023/08/22）**

これは楽しくて非常に人気のあるゲームで、屋外のピクニックやスポーツ活動中によくプレイされます。初めてみんなで遊んだ面白いゲームです。この面白いゲームを同僚、友人、親戚に紹介して、楽しいパーティーに参加してもらいたいと思います。

**あいおえび狩り世界選手権大会(2023/08/27)**

「あいおえび狩り世界選手権大会」と名付けられたこの大会は、31回目の山口市秋穂の中道海水浴場で開かれ、国内外から多くの参加者が集まりました。制限時間40分の中、ビーチに浸かりエビを探しに潜ることができました。初めて参加・体験できる感動と楽しさをお届けします。

**萩市でガラス製品づくり体験(2023/09/19)**

萩ガラス工場の萩ガラス体験教室で、宙吹きによる吹きガラスの制作を体験し、萩ガラスのグラスを作りました。



あいおえび狩り世界選手権大会

### 自己研鑽（習い事）

- 書道を学ぶ（2023/7/15～2023/11/18）

先生の熱心なご指導により、私は書道成立の歴史、日本への導入の経緯、書道流派など書道に関する多くの知識を学びました。

- 尺八を学ぶ（2023/07/23 - 2023/11/26）

尺八の演奏は誰にでも適したエレガントな趣味です。尺八はメロディアスな響きを持つ楽器であり、日本の代表的な伝統楽器です。なので、私は尺八の音色をベトナム、そしてビンズン省に広く知ってもらうために学び、貢献したいと考えています。

### 観光地視察

余暇を使って、以下の山口県内の美しい景色、風景、シンボルを鑑賞しました。

- 瑠璃光寺を訪れました。瑠璃光寺は日本三名塔の一つであり、全国十古寺の一つで、国宝に認定されています。
- 岩国市、錦帯橋を観光しました。5つの木製スパンが曲がりくねったユニークな構造を持つ木造アーチ橋です。
- 白壁の柳井市を訪れました。白塗りの外壁を持つ古民家が立ち並ぶ柳井省の古い町並みです。

## 3 帰国後の展望

この研修は、私に深い印象と新たな視点をもたらしました。そして、日本の国と人々から大変多くのことを学びました。

自治体職員協力交流事業は、私の総合能力を向上させ、職場での専門知識と経験を身につけ、スキルアップするのに役立つ素晴らしいプログラムであり、理論、知識、経験、取り組みを分析・適用して公務を遂行する能力、卓越性を目指して努力し、率先して行動し、結論を出し、管理し、意思決定を行う能力を促進しました。

さらに、研修期間では、様々な関係を構築し、情報を分析したり、同僚と調整・協力したりして問題解決能力を高めました。それで、業務が計画どおりに完了し、最高の結果を得ることが出来ました。

また、勤務態度は思考の更新と革新、創造性の促進、さまざまな分野での知識の活用に対する熱意と責任を示しています。

「令和5年度自治体職員協力交流事業」の研修中に常に条件を整え、ご支援、ご協力を賜りました総務省、自治体国際化協会（クレア）、全国市町村国際文化研修所（JIAM）、山口県庁、山口県国際交流協会の皆さん、特に観光スポーツ文化国際課の皆さんに心から感謝いたします。

私が勉強し、知識を高め、仕事のスキルを向上させる機会を得るために、最高の環境を整えてくださったビンズン省政府、ビンズン省外務局に心から感謝いたします。また経験を積み、将来的には地域に貢献できるよう努力します。

御尽力いただいたすべての方の御健康を祈りますとともに、特にビンズン省と山口県、そしてベトナムと日本の関係がより団結し、友好的となり、持続的に発展することを願っています。



# 事業報告書

## 「湖北省研修員の受入について」

自治体名	大分県
研修員名	劉 雪原
出身国	中華人民共和国
研修分野	行政事務・観光・国際交流
研修期間	6か月
主な研修先	企画振興部国際政策課、中和国際（株）、 大学コンソーシアムおおいた

### 1 背景・目的

大分県は、海外戦略を策定し、県産業の活性化や、グローバル人材の育成を図っている。中国との交流においては、特に湖北省との関係強化を目指しており、平成25年度から一般財団法人自治体国際化協会のLGOTPを活用し、中国湖北省の自治体職員の研修員を受け入れてきた。研修経験者との人的ネットワークを構築し、両省県間の貿易・観光・文化交流の架け橋としたい。

### 2 研修の概要

JIAMで4週間の日本語研修を受け、来県後は国際政策課を中心に研修を行った。留学生向けのスタディツアーで、大分県内企業の視察や中国への情報発信のため県内観光地の視察などを行った。

8月には中国人旅行者を専門的に手配している旅行会社中和国際で1か月間の研修を行った。研修では旅行手配の実務などについて学んだ。

10月下旬からの2週間では、大学コンソーシアムおおいたにて留学生の相談業務補助、翻訳業務等を担った。

その他、駐福岡中国総領事館の領事及び副領事に着任あいさつに出向き、LGOTP事業の説明、大分県と湖北省との関係について報告。領事からも湖北省と大分県の友好関係の継続を望むことを期待しているとの回答を得た。

### 3 研修実施にあたって工夫、苦労したこと

指導員として、大分県滞在中はより多くの方と関われるように工夫した。留学生向けのツアー参加や、駐福岡中国総領事館訪問、東京にある大分県のアンテナショップ視察、大分県出身者の日中投資促進機構の事務局長への訪問など、指導者としてアポイントをとり、より多くの人と顔を合わせて交流が図れるように調整した。

また、国際交流員が参加する業務やイベントに同行してもらい、できるだけ有意義な研修内容となるように努めた。

観光行政を実地で学ぶため、インバウンド向け旅行会社の中和国際で実地研修を行った。

苦労したこと：コロナ禍後初めての受け入れで、受け入れまでのスケジュールがタイトであったこと。また、研修先受入れ企業の選定では、コロナ前受入れしていただいた先がコロナ禍後は、業務多忙により受け入れできないとの連絡を受け、研修先の調整が大変であった。

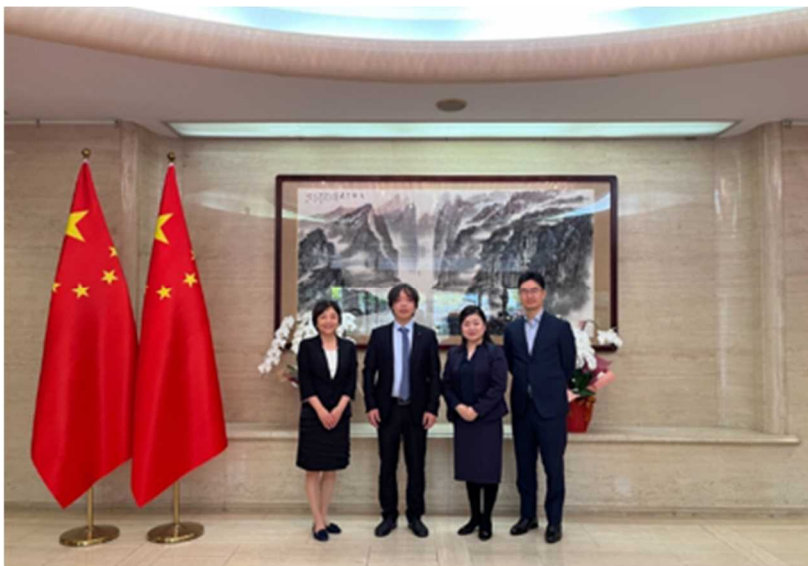
#### 4 成果

成果：中国湖北省での人脈形成や相互理解の進展が期待される。

これまで湖北省から8名の研修員を受入れ、各地域政府に人的なつながりができたことで、今後の多方面にわたる経済・文化交流の足がかりができています。

コロナ禍後の受け入れで、手探りの状態からの受入れ開始であったが、湖北省と大分県との人的交流の懸け橋となる研修生の受け入れができた。

今回の劉研修生は、湖北省のLGOTP担当者であり、今後の大分県と湖北省とのつながりの中で帰国後も随時連絡を取り、交流を継続できる体制が確立できた。



駐福岡中国総領事館 領事・副領事

きょうりょくこうりゅうけんしゅういんけんしゅうほうこくしよ  
協力交流研修員研修報告書

「さらなる友好関係につながる人的交流」

氏名 Liu Xueyuan  
劉雪原

(Name)

出身国 中華人民共和國

(Country)

受け入れ自治体 大分県

(Host Institution)

研修先 大分県庁国際政策課

(Training Facility)

1 本事業に応募した動機

(Reasons for applying for this program)

中國湖北省で国際交流事業を担う外事弁公室という部門で、日本関係の業務を担当するものである。湖北省は中日国交正常化以来、武漢市と大分市との友好交流をはじめ、数多くの友好交流を行ったが、コロナの発生によって現地での交流が一時中断されている。したがって、大分県と連絡を作り、コロナ後の友好交流再開を目的として、私が今回の派遣人選に選ばれた。人的交流を通じ、大分県の国際交流担当者と連絡を作り、友好交流を今後さらに活発化させ、最終的に友好省県関係の締結につながればと思う。個人的には日本語の環境で生活することにより、語学力を向上させ、より自然な日本語での通訳を生かし、湖北省と日本との意思疎通を円滑にさせるのも目標の一つにしている。

2 研修の概要

(Summary of Training)

全体的なスケジュールについては、6月23日～8月25日は大分県庁の国際政策課で研修し、8月28日～9月29日は中和国際株式会社というインバウンド向けの旅行会社で研修。10月2日～10月23日は国際政策課に戻り、中間報告を行い、10月24日～11月5日は大学団体大学コンソーシアムおおいた

で研修。その後は、国際政策課に戻って最後の研修後帰国する日程である。

県庁国際政策課での研修では、県の国際交流の担当者と連絡先を交換し、県が実施している国際交流プロジェクトや県庁の案件処理対応の流れなどを概ねに理解した。そして、フリートークなど県が行った語学講座に参加し、県内に住民の方との交流などを通じて語学力を上げ、県が主催したスタディツアーと「What's up,Oita!」の取材により、高崎山や地獄温泉めぐり、国東半島、昭和の町、久住高原など県内のスポットを見学し、県内の基本状況を多少把握した。また、10月中に中国在福岡総領事館を訪問し、領事に挨拶した。湖北省と大分県との友好交流関係の推進に言及した際に、支持する旨の答えを得た。



大分市大在コンテナターミナル見学



地獄めぐり

中和国際での研修中に、スタディツアーの企画に参加し、チラシの作成などを手伝った。海外旅行会社向けのツアーにも参加し、大分市と別府市のいくつかのホテルを見学し、今後代表団を率いて大分を訪問するためによい経験を溜めた。同オフィスの大分日中友好協会の担当者と連絡先を交換し、武漢市と大分市との友好交流の歴史について教えてもらい、協会主催の大分中国語スピーチコンテストのテキストの翻訳を手伝った。



中和国際研修



豊後の森機関車庫見学

大学コンソーシアムおおいたでの研修では、留学生ビジネスセンターでの

研修などを通じ、大分県における留学生事業について話しを聞いた。大分ワールドフェスタの受付を任せるなど、大学団体との連絡を作った。

### 3 帰国後の展望

(Plans upon returning to your home country)

(本事業で得た成果を帰国後どのように活かしたいか)

帰国後、湖北省の国際交流部門に戻り、日本対応を担当するので、今回の経験を生かして引き続き大分県との交流を深めるように尽力する。具体的には、地方政府間の相互訪問の実現を促し、友好交流の内容の粋を覚書の形で成り立たせることや、人的交流を含む文化・旅行・スポーツ・青少年交流などの民間交流イベントを催すこと、産業・企業交流会や政策説明会を開くこと、LGOTPなどの既存プロジェクトに最適人選を抜擢し、新たな接点を作ることなどが考えられる。また、語学力を生かし、通訳役を全うし、日本との交流がうまく進むように努力する。

## 「自治体職員協力交流研修員の受入れについて」

自治体名	高知県高知市
研修員名	ヒルダ ムルティ アルタリナ
出身国	インドネシア共和国
研修分野	一般行政
研修期間	6か月
主な研修先	総務部総務課

### 1 背景・目的

高知市では、平成9年にインドネシア・スラバヤ市と姉妹都市提携を行い、以降、文化・教育・経済等さまざまな分野で交流を続けている。

平成10年度からはほぼ毎年、本事業を活用し、姉妹・友好都市提携を結ぶ海外の自治体との交流の一環として、研修員を受け入れてきた。

今年度は24人目となる研修員をスラバヤ市から迎え、行政研修を行った。

### 2 研修の概要

東京でのオリエンテーション、J I A Mでの研修を終えた6月下旬から9月中旬までの約2か月半の間、高知市内の日本語学校において語学研修を実施した。

9月下旬からは、行政研修として、各部署での研修を週に1、2回のペースで実施した。研修内容は、研修員のスラバヤ市での担当業務である都市空間計画に関連する分野を中心に、区画整理地や給食センターの見学等も取り入れた。

また、合間には当市の国際交流員3名（インドネシア、アメリカ、中国出身）と共に地域のお祭りや稲刈り、芋掘り等の行事にも参加し、日本文化に直接触れながら、住民との交流を図ることができた。

	研修内容
6月 ～ 9月上旬	日本語研修 地域行事等への参加
9月下旬 ～ 11月	行政研修 研修先：総務課、みどり課、都市計画課、建築指導課、公共建築課、交通戦略課、住宅政策課、地域防災政策課、長浜給食センター、市街地整備課、学校教育課、地域活性推進課

### 3 研修の実施にあたって工夫、苦勞したこと

インドネシアの国際交流員の協力のもと、生活や健康面について日常的に配慮し、研修員が安心して研修に臨めるよう努めると共に、研修員から毎月提出される報告書を通じて、各部署での研修内容や活動等を把握した。

また、研修には専門用語が多く使用されることから、インドネシアの国際交流員に通訳として全ての日程に同行してもらい、研修前後の質問等のやりとりの翻訳も任せていたため、研修先との日程調整に加えて国際交流員の予定も考慮する必要があり、研修計画に時間を要した時もあった。

### 4 成果・課題

研修員の担当業務に関連する部署を中心に研修を行ったことで、帰国後すぐに業務に活かすことができるとの感想が研修員からあった。

受入自治体側としても、相互の情報・知識を共有し、意見を交わしたことで、業務の効率化や改善につながる手応えを感じることができた。

今後は、高知市全体の行政について伝える場や、研修員が市民や職員と交流ができるような機会を増やすことで、研修期間のさらなる充実を図り、両市のつながりの軸となるような事業にしていきたい。



地域の子もたちと芋掘りをする研修員



行政研修の様子

# LGOTP 2023 FINAL REPORT

氏名 ヒルダ ムルティ アルタリナ

(Name)

出身国 インドネシア

(Country)

受入自治体 高知県 高知市

(Host Institution)

研修先 高知市役所 総務課

(Training Facility)



## 1 本事業に応募した動機

(Reasons for applying for this program)

Previously, I had visited Japan on different occasions with different roles and for different purposes: as a trainee on a training program about Architecture and Building Construction in 2012, as a graduate student to study about Urban Engineering in 2014, and as a traveller on a trip in 2019. Those opportunities have provided me with valuable insights and experiences that support my growth as an individual in every role I have undertaken.

This year, as an employee working in the government office, when I encountered a chance to become a trainee in one of Japan's municipality office, I considered that as a great opportunity to improve myself as a *Koumuin*. I wanted to learn more about the Japan's way of conducting public works, dealing with future challenges, and solving problems at the governmental level, especially related to my field of work that is City Planning. Besides that, I would like to explore further about other places in Japan that offer endless opportunities to broaden my knowledge and insight not only about this country's wonderful destinations, but also about its rich cultural heritage, about its people and about their way of life which is full of meaning.



## 2 研修の概要

### (Summary of Training)

なに まな なに み つ ぶく  
(何を学び、何を身に付けたかを含む。)

Our six months program as LGOTP trainees was held in three different cities: Tokyo, Otsu, and Kochi. The four days of training in Tokyo was the time when we started to adapt and be introduced to life in Japan. We then moved to Otsu City in Shiga Prefecture to start the intensive training to learn Japanese Language in Japan Intercultural Academy of Municipalities (JIAM) for one month. Aside of learning Nihongo, we also had various activities, such as learned about the tea ceremony, trained at disaster center, introduced to the administration system in Japan, experienced homestays with Japanese families, and even had a chance to give a presentation about our respective countries to Junior High School students.

In the final stage of the program, which was held in Kochi city, I had a 5-month training at the General Affairs Division of Kochi City Office. For the first 2.5 months, the training was focused on improving my Japanese language ability by studying at Nihongo Gakkou (Nichibei Gakuin). During my study, I not only learned about the language but also about the culture, the wisdoms, the people, and various interesting things about Japan by visiting various locations, interacting with local communities, and introduced them to



Presentation about Indonesia at Karasaki Junior High School, Otsu-shi



Kyoto Disaster Center short training



Japanese Tea Ceremony experience

Indonesia.

For the last 2.5 months, I got to learn about specialized fields related to my work in Indonesia. I got valuable opportunities to learn and have in-depth discussions with several Divisions such as the City Planning Division, Construction Regulations, Public Building Construction, Transportation Strategies, Housing Policy, Regional Disaster Prevention, Tourism Promotion, Urban Redevelopment, and Greenery Division. I also got to learn about the education system in Japan and was given a chance to visit the School Lunch Center.



Urban Redevelopment project site visit



Regional Disaster Prevention Division

### 3 帰国後の展望

(Plans upon returning to your home country)

(本事業で得た成果を帰国後どのように活かしたいか)

(How would you apply what you have learnt on the program?)

During my training at several Divisions in Kochi City Office, I gained abundance knowledge and new insights especially related to City Planning as my field of work. In Surabaya at present time, as the population continues to grow and the development of the city also accelerates rapidly, the city experiences various problems regarding a massive need for affordable housing, environment deterioration, and transportation management. However, while we are trying to overcome these problems, learned from Japan's experience, I came to realize that we must also aware and prepare ourselves for other conditions and changes that may occur in the future: aging population, low birth rates and population decline that lead to several problems such as the shortage of workers, building construction waste, growing numbers of *Akiya*, and abandonment of villages and

areas that once were industrial center.

Currently, I am assigned to the Spatial Planning Division of the Department of Public Housing, Settlement Areas and Land Affairs. This Division mainly handles tasks related to city planning and building construction regulation. The main project that we have been working on since last year is the 20-year Spatial Planning Documents for Surabaya city which later will be enacted as spatial planning regulation. I plan to apply what I have learnt during LGOTP to start raising the awareness about the problems mentioned above, and further deepen our study on that matters to be considered and applied on the spatial planning documents that we are currently working on.

## R5 年度 LGOTP 最終報告書（高知市）【日本語訳】

ヒルダ ムルティ アルタリナ

### 1 本プログラムへの応募動機

以前、私は異なる役割と目的で日本を数回訪れています。2012 年には、建築と建築施工に関するトレーニングプログラムの研修生として、2014 年には、都市工学について学ぶための大学院生として、そして 2019 年には、旅行者としてです。これらは、私にとって貴重な識見と経験を与えてくれる良い機会でした。

そして今年度、公務員として日本の地方自治体の研修生になる機会に巡り合い、これは自分の職務において自己向上の素晴らしい機会だと思いました。私は日本が公共事業を進め、将来の課題に対処し、政府レベルで問題を解決する方法について、特に私の仕事である都市計画に関連することについて学びたかったのです。それに加えて、私はこの国の代表的な観光地だけでなく、豊かな文化的な遺産、人々、そして様々な意味を持った彼らの暮らし方についての見識を広げるための無限の可能性を提供している日本の他の地域についてもさらに探求したかったのです。

### 2 研修の概要

私たちの 6 ヶ月のプログラムは LGOTP (Local Government Officials Training Program) 研修生として、東京、大津、高知の 3 つの異なる都市で行われました。東京での 4 日間のトレーニングは、日本での生活に適応し、慣れるための期間でした。その後、滋賀県の大津市に移動し、全国市町村国際文化研修所 (JIAM) での日本語学習のための集中的なトレーニングを 1 か月間受けました。日本語の学習だけでなく、茶道について学び、災害センターでの訓練、日本の行政システムの紹介、日本の家族とのホームステイ体験など、さまざまな活動がありました。さらに、各自国について中学生にプレゼンテーションを行う機会もありました。

プログラムの最終段階は高知市で行われ、私は高知市役所総務部で 5 か月間の研修を受けました。最初の 2.5 か月間は、日本語学校 (日米学院) での学習により、日本語能力の向上に焦点を当てました。学習中には言語だけでなく、文化、知恵、人々、日本の様々な興味深いことについても学び、様々な地域を訪れ、地元のコミュニティと交流し、インドネシアについて紹介しました。

最後の 2.5 か月間では、私はインドネシアでの仕事に関連する専門分野について学ぶ機会がありました。都市計画部門、建築規制、公共建築建設、交通戦略、住宅政策、地域防災、観光振興、都市再開発、緑地部門など、いくつかの部門と深い議論を交わす貴重な機会がありました。また、日本の教育制度について学び、給食センターを訪れる機会も得ました。

### 3 帰国後の展望

高知市役所のさまざまな部門での研修を通じて、私は特に都市計画という私の仕事の分野に関連する豊富な知識と新しい見識を得ました。現在のスラバヤでは、人口が増加し、都市の開発も急速に進展しているため、手ごろな住宅の大量需要、環境悪化、交通管理に関するさまざまな問題が発生しています。しかし、これらの問題を克服しようとしている中で、日本の経験から学び、将来起こり得る他の状況や変化にも気を配り、準備をしなければならないということを実感しました。高齢化、低出生率、人口減少といった将来的に起こり得るさまざまな問題に対応するためには、労働者不足、建設廃棄物の増加、空き家の増加、かつては工業中心だった村や地域の放棄などが含まれます。

現在、私はスラバヤ市の公共住宅、居住地域、土地事務の空間計画部門に配属されています。この部門は主に都市計画と建築規制に関連する業務を担当しています。昨年から取り組んでいる主要なプロジェクトは、スラバヤ市の20年間の空間計画文書であり、後に空間計画規制として制定される予定です。私はLGOTPで学んだことを活かし、上記の問題について意識を高め、現在取り組んでいる空間計画文書に考慮し、適用するための研究を深めるつもりです。